



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第129号

発行:2017年1月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

年頭所感

～ 医療・介護の同時改定に向けて ～

医療法人社団鵬友会 常務理事 池島 守



新年明けましておめでとうございます。
年号が平成になってから29年目を迎えることとなり、当法人においても平成生まれの職員が、若い力を発揮して業務に励んでいる姿が見受けられるようになってきました。その一人ひとり、法人の未来を担ってくれる大きな力になるでしょう。ただ、問題もでてきています。「昭和生まれ」の管理者にとって感覚や価値観が違うことに驚かされることがあるということです。特徴として、打たれ弱い、答えがないと動けない、コミュニケーションをとるのが苦手などです。その中でも答えがないと動けないという報告を多く耳にします。平成世代は生まれた時からモノや情報が溢れた「答え・正解がある」環境で育ってきたためか、ゼロから考え・行動することが非常に苦手な傾向にあると言われています。ゆえに、少しでも上手いいかないことがあると、あきらめやすい、消極的になってしまう。その逆に昭和世代は「答え・正解がない」環境で育ってきています。もし分からないことがあれば、本を読む・誰かに質問するなどして、自分の考えを構築させていくということが普通のなかで育っています。そういった感覚の違いによって悩んでいる管理者がいます。これを回避するためには、平成世代の短所を補い長所を引き立てる。平成世代は非常に素直ですので、答え（目的）が明確であるほど目覚ましい能力を発揮します。昭和世代は常に答え（目的）を意識させること。これにより意欲・やりがいを引き出し、良い方向へいくはずです。管理者の皆さんは、ぜひ今後の人財育成に、取り組んでいただきたいです。

次に、鵬友会の昨年を振り返ってみますと、4月に診療報酬改定がありました。平成37年（2025年）に向けて、国や各自治体が地域包括ケアシステムの整備を進める中、今回の改定は小幅な改定にとどまった印象です。ただ次回は医療・介護の同時改定が控えています。今回の改定が発するメッセージをしっかりと理解した上で、方向性を見極める必要があります。それを受けて【湘南泉病院（急性期一般）】では、年々診療力の向上と医療設備の整備に邁進し続け、昨年は地域包括ケア病床の増床、麻酔

科常勤医の招聘、外科の充実、新たな専門外来の開設。また、4月にマンモグラフィーを導入し、早期の乳がん発見に努めています。【新中川病院（療養型）】では、高齢者で重症度の高い方や複雑な病気を持っている医療度の高い方が湘南泉病院や急性期病院より多く転院してくることから、転院時に、患者さんにとって環境や待遇、医療の質を落とさないように整備を進めています。昨年は、4月に病院機能評価の認定を受け、新しい常勤医を招聘し、慢性期の呼吸器が必要な方を積極的に受け入れるようにしました。【横浜ほうゆう病院（認知症専門）】では、医療保護入院の見直し、近隣の高齢者施設の増加により、入院患者が減少し空床が目立つようになりました。そのため、入院相談から入院までの短縮化、各方面の営業活動、看護相談外来、認知症家族講座等は従来より強化し、昨年は在宅での生活支援と地域との連携に重点をおき、介護施設職員対象のセミナーの開催・精神科訪問看護・認知症出前講座に取り組みました。【阿久和鳳荘（介護老人保健施設）】は、現在の制度では、どれだけ在宅へ帰したかによって収入に影響がでるようになっており、その基準が在宅復帰率30%（支援型）と50%（強化型）を超えるかどうかで左右されます。職員一人ひとりが利用者さんとご家族のニーズに合わせた動きを積極的に行い、まずは支援型の取得を目指す整備を進めました。【本郷クリニック（内科クリニック）】はここ数年安定した施設運営を行うことができ、地域のニーズに応じた医療を提供し続けております。【ほうゆう保育園（認可保育園）】は平成27年4月から認可保育園になり、昨年は定員（60名）一杯で運営し地域の方々に貢献できるよう邁進しております。等々、各施設が将来の方向性を考えて、着々と進んだ年でありました。今年は更に将来を見据えた改善を行ってまいります。

本年も新たな活躍に向けて職員一同邁進する所存でございます。更なる皆様からのお力添えをいただきながら、良質な医療・介護・福祉サービスを推進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



クリスマス会 2016

この時期恒例のクリスマス会が各施設で行われました。クリスマス会の雰囲気を楽しんで頂こうと、飾りつけをし、職員の出し物やサンタクロースの訪問もあり、盛況となりました。



阿久和鳳荘
ハンドベル演奏



ほうゆう保育園



ほうゆう保育園



ほうゆう保育園



新中川病院
トーンチャイム演奏



横浜ほうゆう病院



インフルエンザ・感染性胃腸炎に気をつけましょう！

昨年末からインフルエンザと感染性胃腸炎が増加しており、横浜市では、インフルエンザ流行注意報・感染性胃腸炎流行警報が発令されております。うがいや手洗いなどの感染症対策をし、予防に努めましょう。

◆ 風邪とインフルエンザの違い

	風 邪	インフルエンザ
症 状	鼻水、のどの痛みなどの局所的な症状。	38℃以上の発熱、咳、のどの痛み、全身の倦怠感や関節の痛みなどの全身症状。
流行の時期	一年を通し、かかる可能性あり。	1月～2月に流行のピーク。ただし、4月、5月まで散発的に流行することも。

◆ 感染性胃腸炎（ノロウイルス）はこうして感染する

(1) 食べ物 ⇒ 人

カキなどの二枚貝を生や加熱が不完全なまま食べることで感染します。これは、人の便などに含まれたウイルスが下水から河川・海に流れ出て、二枚貝の体内に蓄積するためです。

(2) 人 ⇒ 食べ物 ⇒ 人

感染者の嘔吐物・便には多量のウイルスが排出されます。感染者がよく手を洗わずに調理作業にあたると、手や調理器具から食品にウイルスが移り、それを食べた人が感染します。

(3) 人 ⇒ 人

感染者の嘔吐物・便を触った手や、その手で触れたものを介して、ウイルスが口に入り感染します。また、汚染箇所などをよく消毒しないと乾燥後にウイルスが空气中に飛散し、その粒子を吸い込むことで感染することがあります。